

# 十勝 ビート畠「直まき」2割超



日本一のビート産地の十勝で、苗を植えるのではなく種を直接畑にまく「直まき」に取り組んだ畠が昨年、2割を超えた。収量が3割は落ちるところだが、作業の手間を大幅に省くことができるところから農家の支持が広がっている格好だ。離農などで1戸当たりの作付面積は広がっており、今年も直まきに切り替えられた農家が増えそうだ。

日本一のビート産地の十勝で、苗を植えるのではなく種を直接畑にまく「直まき」を取り組んだ畑が昨年、2割を超えた。収量が3割は落ちると言われるが、作業の手間を大幅に省くことができるのかどうか農家の支持が広がっている格好だ。離農などで1戸当たりの作付面積は広がっており、今年も直まきに切り替えられる農家が増えそうだ。

収量減も大幅省力化

1人で種まき作業をする富田さんの

直まき用のジートの種（手前）と、  
1人で種まき作業をする富田さんの  
トラクター＝十勝管内更別村

富田さんの場合、昨年までは2月に苗床作りを始め、4月から植え付けしてきた。トラクター1台につき運転手を含め3人必要な上、発芽して水分を多く含んだ重さ約5キロの苗床をトラクターに運ぶのも重労働。直まきへの切り替えは、70代の両親が畑に出ることが難しくなってきたためで、苗床の準備期間を含めると作業時間は2カ月近く短縮できたという。

2017年5月1日朝刊2面

①ビートの苗を植えるのではなく、種を直接まく「直まき」を行う良さは何でしょうか。

②この例以外にも、農家のひとたちはさまざまな生産の工夫を行っています。どのようなことが挙げられますか。教科書なども参考にしながら書きましょう。